

住井すゑとその文学の里(四十七)

―牛久沼のほとり―

牛久市文化財保護審議委員

栗原 功くりはら いさお

ポツダム宣言に基づくマッカーサーの日本占領統治―日本の民主化―

昭和20年(1945年)8月15日に鈴木貫太郎首相が戦争を終結して辞職した。

国土、特に首都東京は焼け野原と化し、世情騒然とする中、2日後の17日に戦後処理に当たる皇族の東久邇宮稔彦内閣の誕生となった。

8月下旬には、米軍を主力とする連合国軍の進駐が始まった。30日にGHQ(連合国軍最高司令官総司令部)最高司令官で米軍のマッカーサー元帥が神奈川県厚木航空基地に降り立った。これより日本は、主権が回復する昭和27年(1952年)4月のサンフランシスコ平和条約発効(同時に独立後の非武装日本の安全保障のための日米安全保障条約も発効)まで、マッカーサーによる占領統治となった。

10月9日に首相が幣原喜重郎に代わり、11日にマッカーサーから幣原首相に対して、ポツダム宣言に基づき「最終的の日本国政府形態は日本国民の自由に表示する意志により決定せらるる」ことが明確にされ、婦人参政権付与、労働組合法制定、教育制度改革、秘密審問司法制度撤廃、経済民主化、以上五大改革の指令があった。翌昭和21年(1946年)2月にはGHQが自ら作成した憲法のたたき台を幣原内閣に

示して憲法改正を強く迫った。幣原内閣では国務大臣松本丞治が中心になって、GHQのたたき台に基づいて憲法草案を作成した。首相が吉田茂に代わり、憲法草案が帝国議会で審議されて、11月3日に日本国憲法として公布(施行は翌昭和22年(1947年)5月3日)となった。

婦人参政権付与で衆議院議員39人誕生―本県でも女性の衆議院議員ならびに県議が―

大日本帝国憲法、いわゆる明治憲法の趣旨は、天皇主権(天皇大権)であったが、日本国憲法の理念とするところは、主権在民(国民主権)、つまりは民主化であった。

そんな中で、昭和21年4月10日執行の臨時総選挙(衆議院議員選出)で、女性が全国で39人当選。茨城全県一区では、杉田馨子が第3位で当選した。一方、翌昭和22年4月執行の統一地方選挙による茨城県議会(旧県会)議員選挙で、横井ヤイ(真壁郡(現下館市)、阿久津美弥子(猿島郡(現古河市))の2人の女性県議会議員が誕生した。

【衆議院議員選挙(昭和21年4月10日執行)茨城全県一区(定員13人) 敬称略】
◇当選：大津桂一(無所属新・石岡市) 8万8985票

◇当選：河原田巖(日本自由党新・水戸市) 8万4326票
◇当選：杉田馨子(日本自由党新・つくば市) 6万8387票

◇当選：葉梨新五郎(日本自由党元・美浦村) 6万5022票
◇当選：菊池豊(無所属新・下館市) 5万4790票

◇当選：武藤常介(日本進歩党新・常陸太田市) 4万2981票
◇当選：細田綱吉(日本社会党新・土浦市) 4万0762票

◇当選：中山栄一(無所属新・竜ヶ崎市) 4万0381票
◇当選：加藤高蔵(日本進歩党新・水戸市) 4万0030票

◇当選：宮原庄助(日本進歩党新・竜ヶ崎市) 3万8258票
◇当選：鈴木明良(日本進歩党新・結城市) 3万8086票

◇当選：山崎猛(日本自由党元・常陸太田市) 3万3855票
◇当選：小野瀬忠兵衛(日本進歩党新・竜ヶ崎市) 3万1883票

◆次点：川村衛(日本協同党新・牛久市(旧岡田村※)) 3万1152票

ポケット憲法と住井すゑ

ところで、明治30年(1897年)に東京深川で生まれた蜷川虎三は、京都大学に学び、同大学教授、同大学経済学部部長となり、昭和23年(1948年)8月成立の芦田均内閣の初代中小企業庁長官に就任した。同25年(1950年)4月に公選第2代目の京都府知事に当選して、以来全国初の7選を果たし、昭和53年(1978年)に退任した。在任中の蜷川は、小冊子『日本国憲法』

を作って支持者らに配布していた。

その小冊子『日本国憲法』を住井は京都に出掛けたおりに譲り受けていた。これを住井は講演や取材の旅に忘れずにハンドバッグに忍ばせていた。住井はエッセー集『牛久沼のほとり』に『ポケット憲法』と題して、日本国憲法、中でも第2章第9条は読むたびに力づけられ、文化国家の柱であり、揺るぎのない背骨だと記述している。その住井も昭和58年(1983年)ごろ、小冊子『ポケット憲法』を作った。何げなく憲法に触れることができるポケット憲法は、抱樸舎を訪れる人々に配られている。

※川村衛は昭和10年(1935年)9月、政友会に所属して県会議員(同10年1月〜同17年(1942年)9月まで岡田村長兼職)となり、同20年(1945年)12月〜同21年(1946年)9月まで副議長、同21年9月〜同22年(1947年)4月まで議長職にあった。



→住井すゑが作成した『ポケット憲法』

同26年(1951年)9月に再び岡田村長に、同29年(1954年)5月に初代牛久町長に就任し同38年(1963年)8月まで在職した。